

地域幸福度指標のロジックモデル構築等支援業務仕様書

1 委託業務名

地域幸福度指標のロジックモデル構築等支援業務

2 業務対象範囲

生駒市全域

3 業務の背景

生駒市では、令和 5 年度に「生駒市スマートシティ構想」を策定し、「デジタル技術やデータを活用し、すべての市民が暮らしやすく、ずっと住み続けられるまち」の実現に向けた取組を進めており、その一環として第 6 次生駒市総合計画第 2 期基本計画アクションプランにおける「協創による市民参加型スマートシティを実現するための基盤整備事業」（以下「協創基盤事業」という。）を 5 か年で実施しているところである。

協創基盤事業では、市民ひとりひとりの幸福度向上に向け、デジタル田園都市国家構想交付金 TYPE2/3 で必須要件となる、地域における幸福度の指標である地域幸福度指標を活用することにより、これまで市民実感度調査の質問項目では捕捉しきれなかった潜在的なニーズや個人の主観的な課題を定量的に分析し、政策間連携や本市に関わる全ての人や組織との協働の仕組みの構築を目指している。また、市の各種施策と連携しながら、市民参加型合意形成オンラインプラットフォームを活用することで、市民等の対話を促し、既存もしくは新たな市民団体や企業による活動を醸成し、協創的かつ自律的な市民によるプロジェクトを創出することも目指しているところである。

市民の幸福度を中心に据えつつスマートシティ構想を実現するためには、行政だけでなく産官学民が連携しながらプロジェクトを推進していく必要がある。こうした協創的なプロジェクトを通じてスマートシティを実現させていくためには、リビングラボのような市民・事業者・行政が対等な関係性で協創する実験的なプロジェクトを実際に実施し、市民や事業者等のネットワークの構築や推進のために必要な基盤の整備などを通じてスマートシティ構想の実現と基盤整備を進めていくことが求められる。こうした実際のプロジェクトでの実験的な取り組みを通じてスマートシティ実現のために必要な市民参加型合意形成オンラインプラットフォームがどういう位置付けであるべきか、その活用方法、それを活用してのプロジェクトの推進方法、効果測定指標を協創基盤事業の 5 か年で見極め、備えていく予定である。

4 業務目的

以上の背景のもと、令和6年度は「生駒市スマートシティ構想」における協創や市民（利用者）中心主義の理念に基づき、誰一人取り残されないデジタル社会の実現に向けて生駒市独自の地域幸福度指標のロジックモデルを構築することで市の各種施策や市民参加型合意形成オンラインプラットフォームの位置付けの整理を実施し、目指す姿の実現に向けた道筋を明らかにするとともに、本市が地域幸福度指標を全市的に活用していくための指針づくりを行う。さらに、独自指標に基づいたアンケート調査項目の設計を実施することで、来年度以降のアンケート実施で指標に関する市の現状を把握できるよう準備する。併せて、構築した地域幸福度指標のロジックモデルが実効的かどうか、実際の協創プロジェクトの伴走支援等を実施することで一部評価を行い、精度を高めていく予定である。

- 地域幸福度指標とは、デジタル庁で公表されている、市民の「暮らしやすさ」と「幸福度」を数値化・可視化した、客観指標と主観指標からなる指標のことをいう。
- リビングラボとは、日々の生活や仕事の場（リビング）などを研究開発の場（ラボ）に見立て、社会実験の取組を検証していく手法のことをいう。実際の住民による利用状況やデータ分析により結果の検証や改善を図り、将来的な実装につなげられることが特徴である。（参考「スマートシティガイドブック」（スマートシティ官民連携プラットフォーム事務局））

5 業務期間

契約日から令和7年3月31日まで

6 業務内容

(1) 地域幸福度指標のロジックモデル構築支援

(ア) 「生駒市スマートシティ構想」の理念である協創や市民中心主義に基づき、誰一人取り残されないデジタル社会の実現に向けた、本市の現状や課題を整理する。

(イ) 生駒市独自の地域幸福度指標のロジックモデルを構築することで、本年度以降に続く「協創基盤事業」における市の各種施策やオンラインプラットフォームの位置付けを整理し、目指す姿の実現に向けた道筋を仮説として明らかにし、本市が地域幸福度指標を全市的に活用していくための指針とする。

なお、市の実情に応じた独自の指標とするため、ロジックモデルを描く際の最終的なゴール像は総合計画で規定している将来都市像やスマートシティ構想で規定している目指す姿を参考にし、政策の対象者として設定するペルソナごとに描くこと。ペルソナについては、生駒市の目指す姿や現状を踏まえて適切な人数と属性、特性で設定すること。

○生駒市総合計画で規定している将来都市像

<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000034/34754/kihonkeikaku.pdf>

○生駒市スマートシティ構想で規定している目指す姿(5ページ目)

<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000030/30399/kousou.pdf>

○ロジックモデル、ペルソナとは

地域幸福度指標の実践のための OASIS 研修で整備するロジックモデルやペルソナを指す。

https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/11e68843-5707-4331-8eal-00c1bcebe4c2/6f2bf16a/20240205_meeting_digital-garden-city-nation-wellbeing_outline_02.pdf

(2) 地域幸福度指標活用の基礎データとなる情報源の整理とアンケート調査設計支援

生駒市独自の地域幸福度指標の設定に伴うデータ収集に向けて、活用できる既存の情報源を生駒市のアンケート調査や統計データ等をもとに整理する。そのうえで新たに実施するアンケートで取得しなければならないデータ項目を明らかにする。

その際、「地域幸福度(Well-being)指標アンケート設問票(標準モデル 50 問)」も参考にする。アンケートは、市民から無作為に抽出した18歳以上の男女を対象として、追加調査の設問数は20問程度とする。これを基に次年度(令和7年度)上半期にアンケート調査を実施し、令和7年度に実施予定の市民の幸福度に基づく政策デザイン研修(通称:OASIS 研修)の基礎データとする予定である。

○地域幸福度(Well-Being)指標アンケート設問票(標準モデル 50 問)

「地域幸福度(Well-Being)指標アンケート設問票(標準モデル 50 問)」とは、地域幸福度指標の主観的指標を測定するため、デジタル庁で公表されている、令和 5 年度に作成された 50 問のアンケート設問のことである。

https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/10acd848-153a-4225-b4dd-d91c45e20912/60a24e50/20230608_policies_digital_garden_city_nation_format_01%20.xlsx

(3) 市民との試行的な協創プロジェクトの伴走支援等によるロジックモデルの検証

(ア) (1)により作成した地域幸福度指標のロジックモデルを検証するために、市民参加型合意形成オンラインプラットフォームを活用した市民との協働を検討しているもしくは

は取り入れることがふさわしいと思われるプロジェクトを選定する。

提案に際しては、第 6 次生駒市総合計画第 2 期基本計画アクションプラン等で生駒市で今年度実施している/予定の取り組みを参照した上でプロジェクトを仮で選定する。最終的なプロジェクトの決定は関係者と協議の上最終決定することとする。

- (イ)「(1)地域幸福度指標のロジックモデル構築支援」で作成したロジックモデルのうち、本年度の検証に値する検証項目を明らかにしたうえで、伴走支援等の計画を立てる。その際、プロジェクトに関係する市民等の参加促進方法、ワークショップ又は市民参加型合意形成オンラインプラットフォームの活用タイミングや活用方法、スケジュールやプロジェクトの関係者の役割、ロジックモデルに基づくオンラインプラットフォームの位置づけ等、プロジェクトの実施に際して検討すべき項目を明確にし計画を立てること。
- (ウ)(イ)で策定した計画に基づき、オンラインプラットフォームを活用した市民との協働を検討しているもしくは取り入れることがふさわしいと思われるプロジェクトの伴走支援等を行い、「(1)地域幸福度指標のロジックモデル構築支援」で作成したロジックモデルを検証する。

○第 6 次生駒市総合計画第 2 期基本計画アクションプラン

<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000034636.html>

○生駒市のオンラインプラットフォーム

生駒市独自にオンライン上に設置しているプラットフォームであり、市民と市に関わりたいと思う方が誰でも参加し、テーマに沿って自由に対話等を行うことができる場である。これまでは、市民が市政に参加するには市が主催するワークショップへの参加やアンケートに限られていたが、本プラットフォームを通じて、いつでも誰でも、オープンな形で市の計画策定等に関わることができることを目指している。

<https://ikoma-city.liqlid.jp/>

7 スケジュール(想定)

- ・令和 6 年 11 月中旬 契約予定
- ・令和 6 年 11 月～12 月 本市の現状・課題の整理、市民との試行的な協創プロジェクトの選定・調整
- ・令和 6 年 12 月～令和 7 年 3 月 地域幸福度指標のロジックモデル構築支援並びに地域幸福度指標の基礎データの整理及びアンケート調査設計支援
 - ・令和 7 年 1 月～3 月 市民との試行的な協創プロジェクトの伴走支援等
 - ・令和 7 年 3 月 ロジックモデルの検証結果提出

8 成果品

本業務に関する、下記の成果品を納品すること。なお、書類はA4用紙に印刷できる形式により、電子ファイル(PDF形式及びMicrosoft Office(Word、ExcelまたはPowerPoint形式))で提出すること。

○成果品

- ・地域幸福度指標のロジックモデルの構築やアンケート調査設計で収集・整理した情報
- ・地域幸福度指標のロジックモデル
- ・地域幸福度指標のロジックモデルの基礎データとなるアンケート調査設計書
- ・試行的な協創プロジェクトの伴走支援等によるロジックモデルの検証結果

9 実施体制

本仕様書に定める委託内容を踏まえ、本業務を円滑かつ確実に進行できる体制を整備すること。また、体制を変更する必要がある場合には、事前に本市の承認を得ること。

10 協議

本仕様書に定める事項に疑義が生じた場合、または本仕様書に定めのない事項(仕様変更、機能追加等)で協議の必要がある場合は、本市と協議を行うこと。

11 再委託

原則として、本業務の全部または一部を第三者に委託しまたは請け負わせることはできない。ただし、事前に協議し、あらかじめ本市の書面による承諾を得た場合はこの限りではない。この場合、受注者は主たる業務を再委託してはならない。受注者は、当該第三者の行為のすべてについて責任を負うものとする。

12 その他留意事項

- (1) 個人情報を取り扱う場合は、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)の規定及び特記事項に掲げる事項を遵守しなければならない。
- (2) 業務の履行に当たっては生駒市環境マネジメントシステムに準じて、環境行動を推進するものとする。
- (3) 本業務において作成した成果品等は本市に帰属するものとする。本業務受託者は本市の許可なく使用してはならない。

○関連資料

- ・生駒市スマートシティ構想(<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000030399.html>)
- ・第6次生駒市総合計画第2期基本計画アクションプラン(令和6年度)
(<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000034636.html>)

